

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 2022年7月1日

(2)調査対象期間 2022年4月～6月期の実績および2022年7月～9月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	20社	66.7%
水産業部会	30社	16社	53.3%
機械工業部会	30社	18社	60.0%
建設業部会	30社	21社	70.0%
観光・サービス業+諸業部会	30社	17社	56.7%
合計	150社	92件	61.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－業況は回復傾向にあるものの、来期は再び大きく悪化の見込み－

1. 全体の動き(業況)

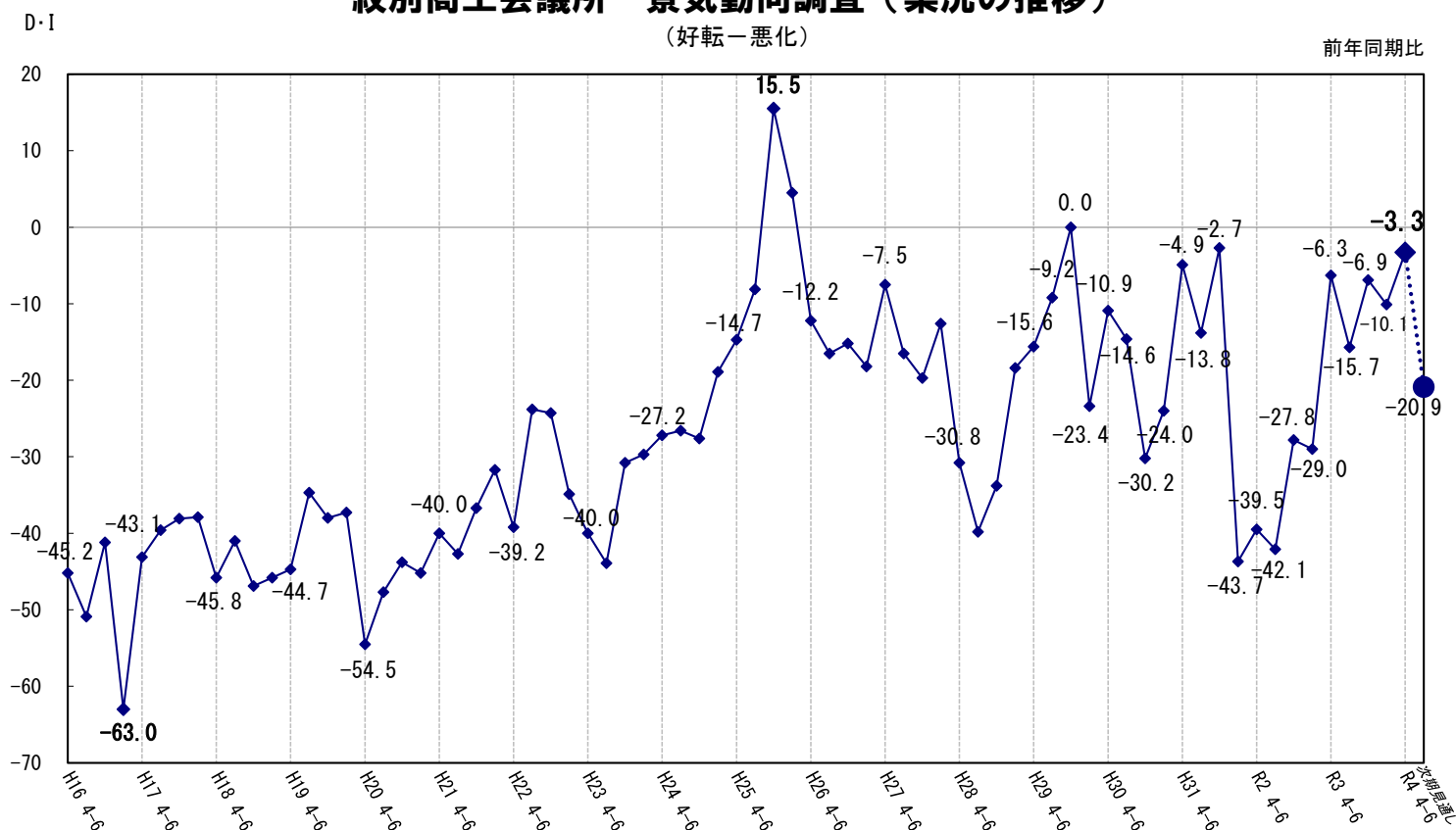
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(2022(令和4)年4月～6月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では▲3.3**と前年同期の▲6.3より**3.0ポイントの回復**となりました。

部会別で前年同期(2021 第1 四半期)と比較すると、商業・食品業[前年DI値▲45.0→**今期▲25.0**]、水産業[前年DI値26.7→**今期12.5**]、機械工業[前年DI値17.7→**今期11.1**]、建設業[前年DI値▲4.8→**今期4.8**]、観光・サービス業・諸業[前年DI値▲14.3→**今期▲17.7**]となりました。

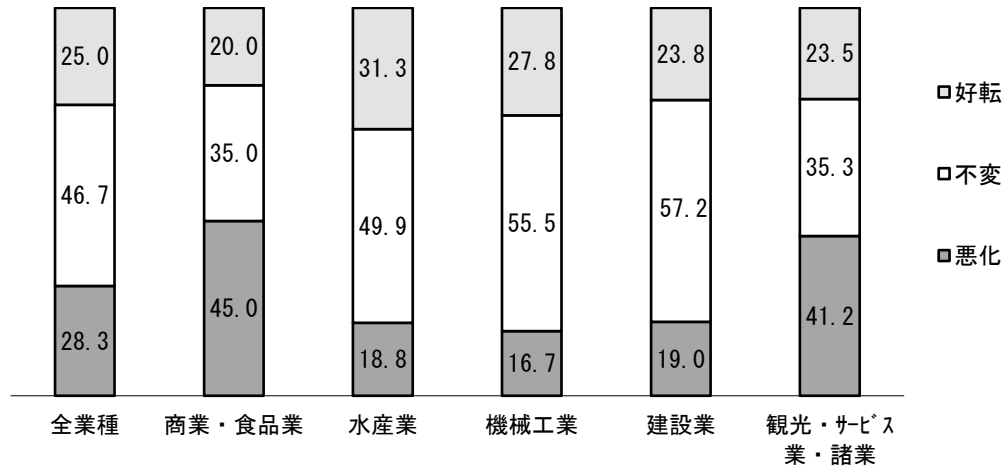
今期は新型コロナウイルスが確認されて以来、初めて制約のない大型連休等を迎え、各々が感染対策を講じる中、サービス業を中心に活気を取り戻しつつありましたが、ロシアのウクライナ侵攻による原油価格高騰や原材料の入手難等の影響を受け、様々な仕入れ単価等が上昇するなど、DI値は前年同期と比較し僅かに回復しましたが、依然としてマイナスの値を示す厳しい状況が続いています。

来期(2022年7月～9月)については、今期と比べて**業況判断DIが▲20.9と17.6ポイント悪化する見込み**となっています。新型コロナウイルス感染症の感染者数が爆発的に増加していることや、ウクライナ侵攻の長期化による影響も懸念されます。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)



今期の業況（前年同期比）



全業種の経営上の問題点としては、前回の調査以降、「従業員の確保難」に代わり、「原材料・材料価格の上昇」を訴える声が多くなっています。

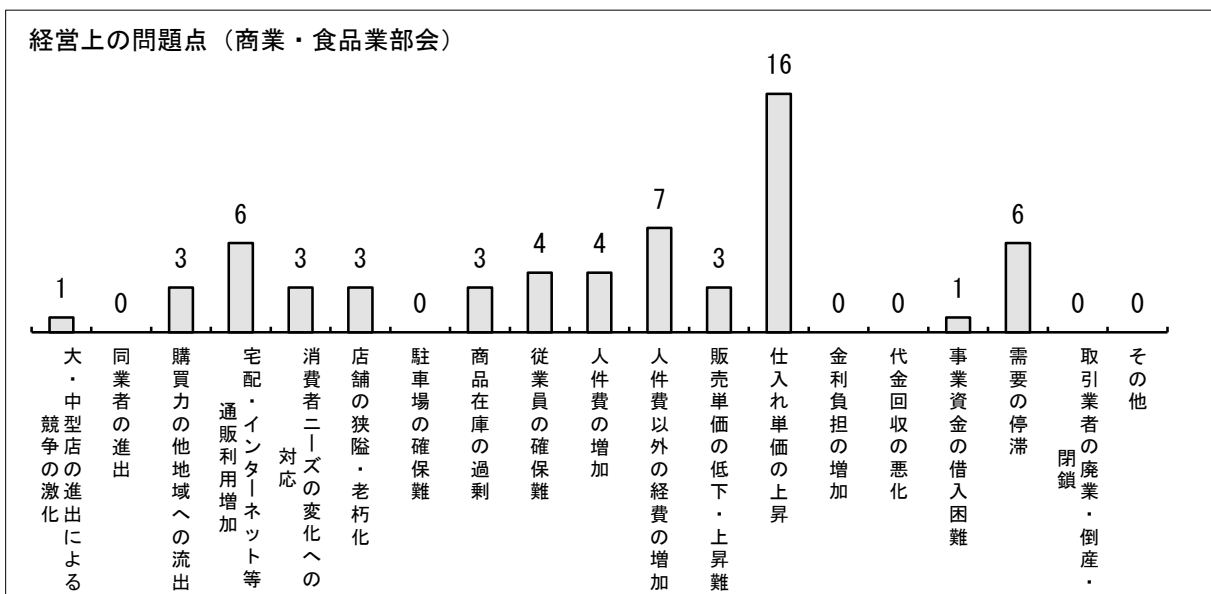
部会別の動向

【商業・食品業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲25.0（前年 DI 値▲45.0、来期見通し▲15.8）〕

業況 DI 値（前年同期比）は、20 ポイントの回復となりました。今期は新型コロナウイルスの感染が国内で確認されて以降、初めて制約のない大型連休を迎え、業況の回復傾向を見ても少しずつ活気を取り戻しつつある様子が窺えます。来期は今期よりも 9.2 ポイント回復する見通しとなっています。経営上の問題点は、「仕入れ単価の上昇」を訴える声突出して多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・電気、LPG、燃料（灯油）の価格高騰。顧客の減少。販売商品の減少。（燃料小売）
- ・嗜好品の製造販売により、売り上げに幅あり。（工芸品製造・小売）



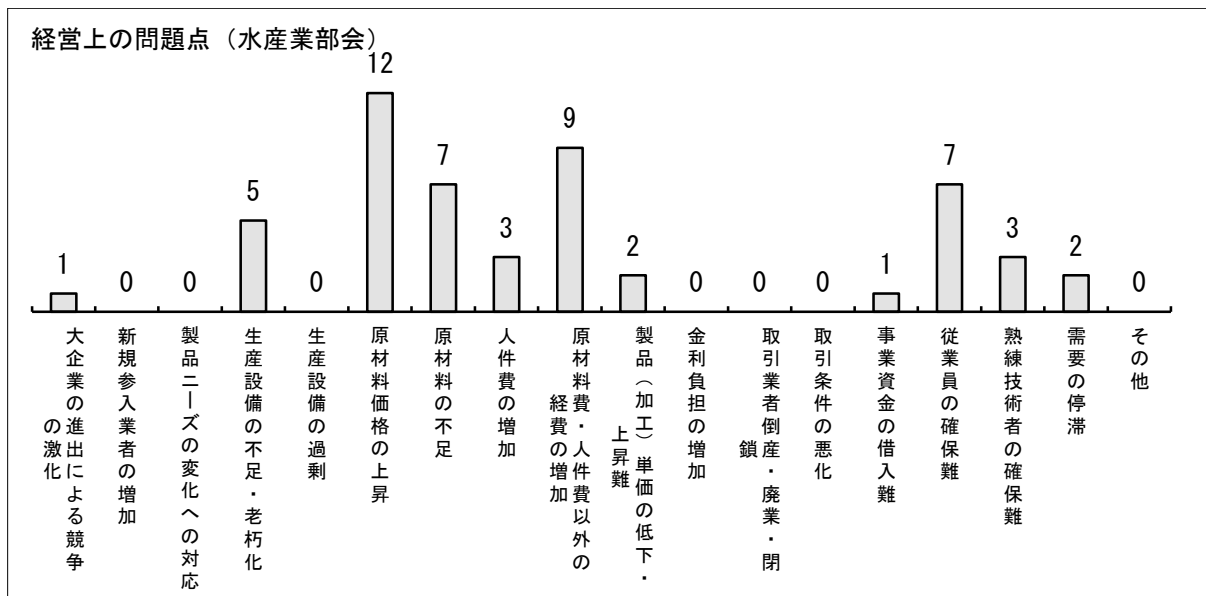
【水産業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）12.5（前年 DI 値 26.7、来期見通し▲25.0）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は、依然としてプラスの値を示し、好調に推移しています。ふるさと納税ランキングで紋別市はここ数年上位にランクインしていましたが、2021 年度の結果発表では初めての首位となりました。返礼品がメディアで紹介されるなど、紋別の知名度の高まりに加え、水産品の中でも特に人気の冷凍ホタテの需要の高さが要因と考えられます。また、

外国人実習生の入国が再開されたことにより、重要な労働力の確保も落ち着きを見せています。経営上の問題点としては「原材料価格の上昇」「原材料費・人件費以外の経費の増加」を訴える声が多く寄せられています。来期の見通しは、今期よりも悪化を示すポイントと今期と変わらず好調に推移する予測となっています。

《業界の問題点等》

- ・原料の確保については、天候や漁獲量の影響を受ける為、見通せないところである。ウクライナ情勢によるエネルギー等の高騰は、資材・添加物等にも波及しており、どこまで製品販売価格に転嫁できるかが懸念される。(水産加工)

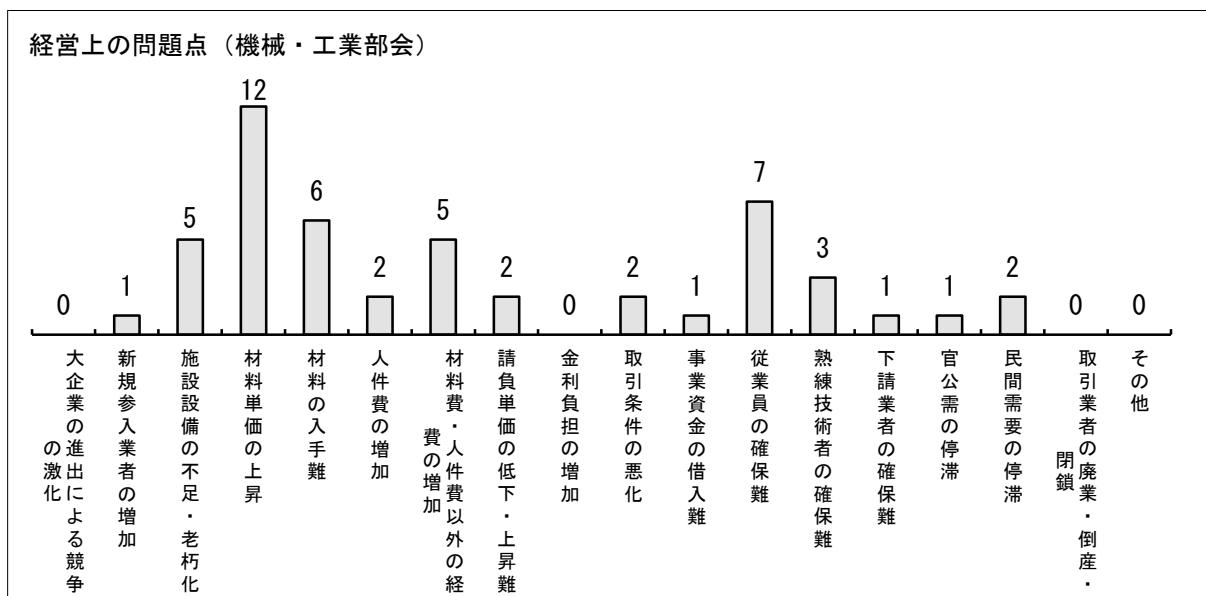


【機械・工業部会】 [業況判断DI値(前年同期比) 11.1 (前年DI値 17.7、来期見通し▲38.9)]

業況判断DI値(前年同期比)は、前年DI値から6.6ポイント下がるも、依然として好調に推移しています。業況が好調な水産業、建設業による需要が増加しています。また、まん延防止等重点措置が解除されたことにより、敬遠されがちだった営業活動も徐々に再開されていますが、自動車販売では悪化を示す回答が寄せられています。来期は50ポイントも大幅に悪化するとの予測となっており、原油・原材料の高騰による電力や燃料コスト等上昇も影響が懸念されています。経営上の問題点は「材料単価の上昇」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・職人、後継者不足(鉄工業)
- ・人材(質・量)の確保(木材加工)

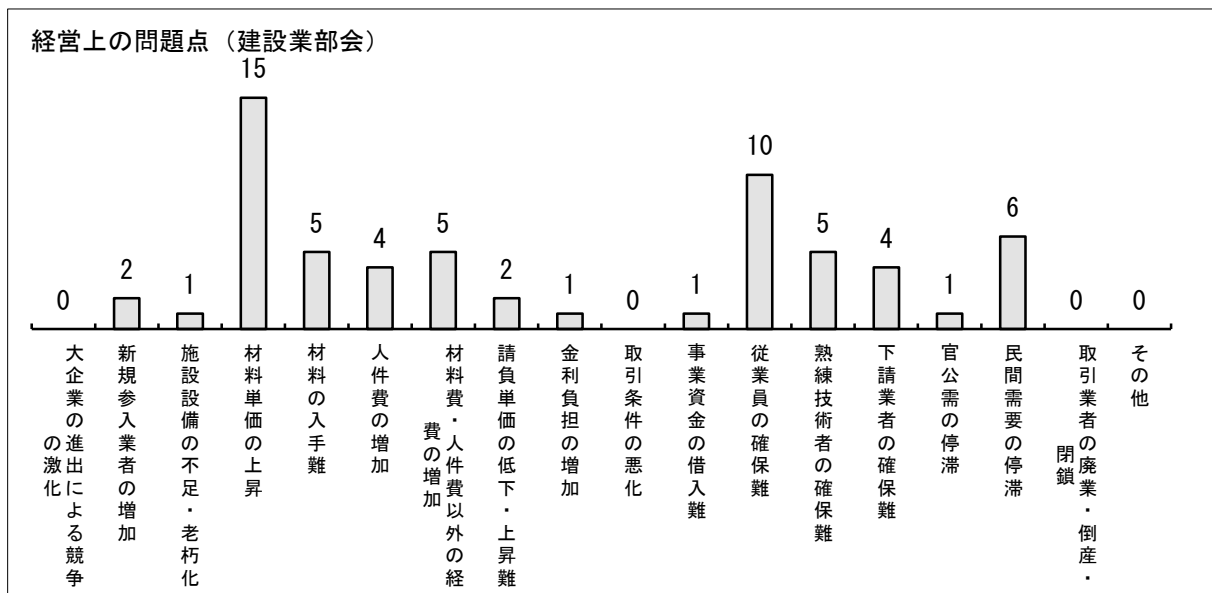


【建設業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比） 4.8（前年 DI 値▲4.8、来期見通し 14.3）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は、前年 DI 値から 9.6 ポイント上昇し、好転となりました。郊外の公共事業に加え、紋別市の「商業環境整備補助金」を活用しての店舗の改修等が行われ、需要が増加しています。土木、建築、電気、板金、塗装と各業種まんべんなく業況が回復している様子が窺えます。また、まちなか市営住宅の着工など、来期は更に回復する見通しとなっています。経営上の問題点は「材料単価の上昇」「従業員の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・冬期間の仕事の不足（土木建築）
- ・材料費の上昇による機械等入替え控え（管工事業）

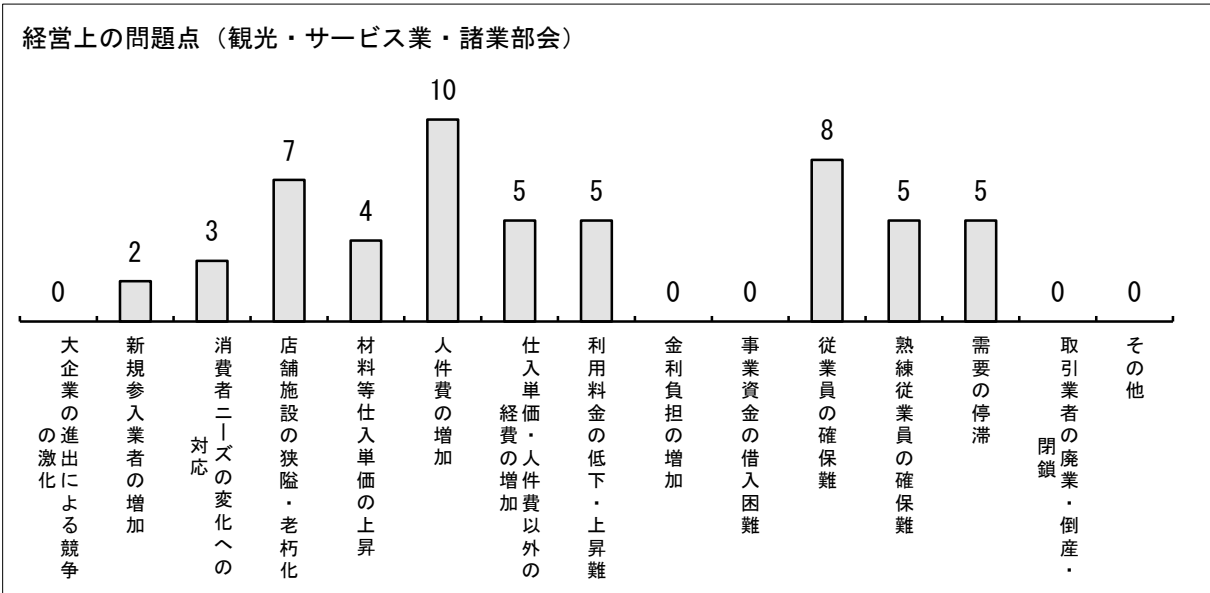


【観光サービス・諸業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲17.7（前年 DI 値▲14.3、来期見通し▲47.1）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は前年 DI 値から 3.4 ポイントの悪化となりました。新型コロナウイルスの感染が確認されて以降、行動制限のない初めての春の大型連休では、市外ナンバーの車が多く見られるなど、各地からの観光客などの入り込みもあり、宿泊業や飲食業、貸し切りバスなどが好転を示す回答を寄せました。しかしながら、燃料の高騰、材料や仕入れ価格の上昇、比較的高齢の顧客を持つ店舗等では回復は鈍い様子が窺えます。来期は再び大幅に悪化する予測となっており、新型コロナウイルスの感染者数の爆発的な増加や、原材料等の高騰が懸念されます。経営上の問題点としては、「人件費の増加」「従業員の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・同業者の廃業等による、地域における飲食業の技術力および地盤の低下の不安。（飲食業）
- ・材料単価の上昇。メニューの変更を検討しています。（飲食業）
- ・人口減少による売り上げの自然減。技術者の高齢化と新規に業界を目指す人の極端な減少。（理美容）
- ・燃料代の上昇、諸経費の上昇（一般旅客運送業）
- ・タクシー業界においてはドライバーの確保が一番の問題点でした。要因は、二種免許取得に係る面倒や困難さがドライバーを生み出さない壁になっていることは間違いのないと思われます。紋別市においては、高齢化が進む中、買い物や通院など昼間の市民の足として利用して頂いていますが、介護タクシー業者も増え、利用者も減少しています。更にコロナ禍となり、運収の多くを占めるイベント、観光、夜の運行の収入は見込めません。だからといって運行を止める訳にはいきませんし、ドライバーを確保したくても維持することが精一杯なのが現状です。何か別の事を考えたりしても、ドライバーの高齢化の現状と働き方改革などもあり、中小企業にはなかなか厳しい社会になってきていると感じます。燃料の高騰や車両の維持なども頭を悩ませる問題です。存続していく為に何をすべきか模索中です。（一般旅客運送業）



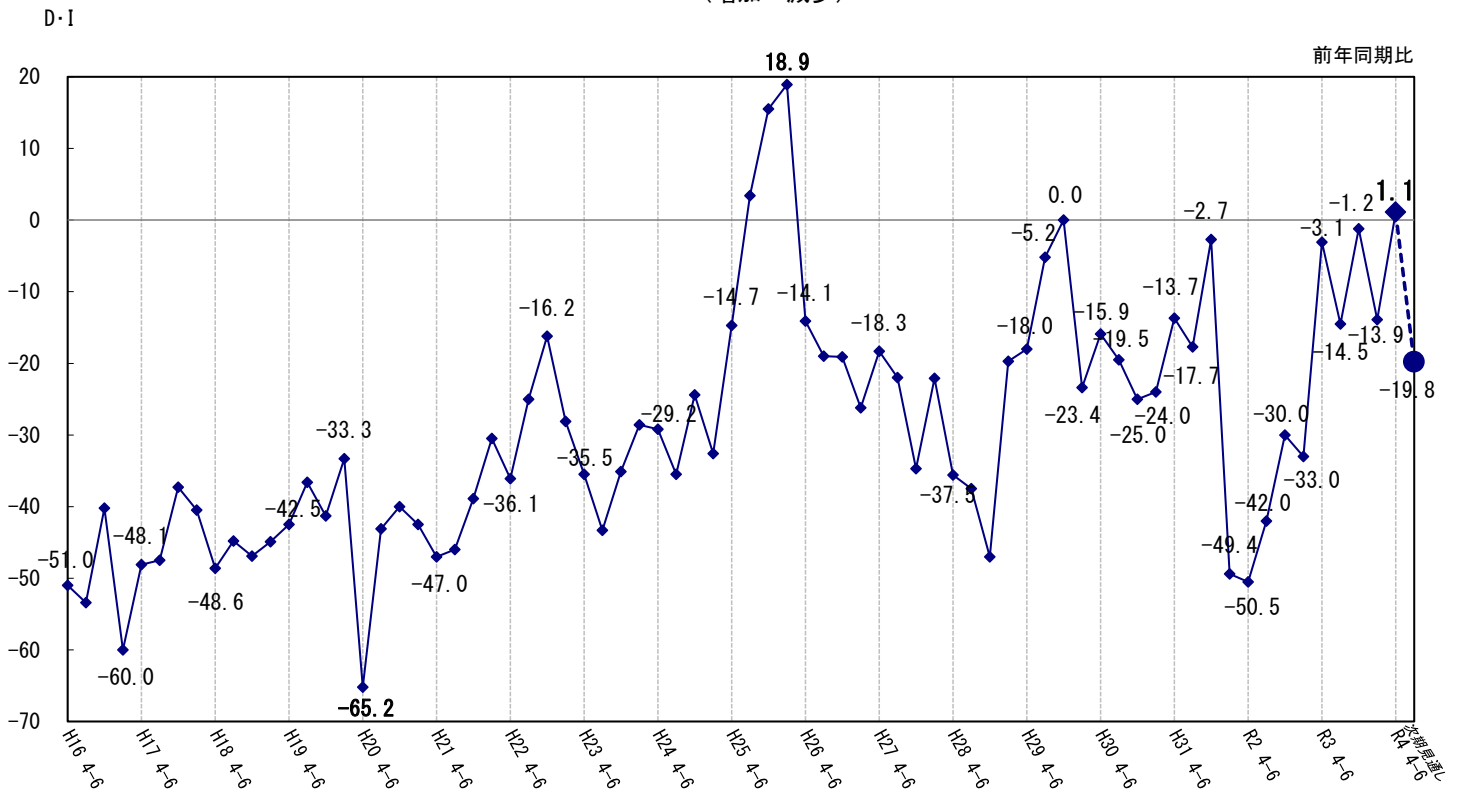
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

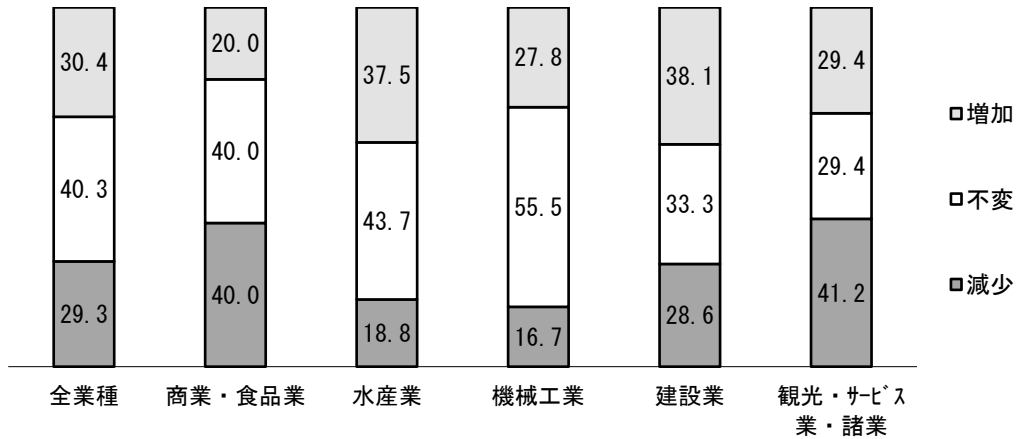
【前年同期比】（令和3（2021）年4月～6月期の水準と比較した今期の売上高）

売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値1.1〔前年同期（令和3年4～6月期▲3.1）より2ポイント回復〕

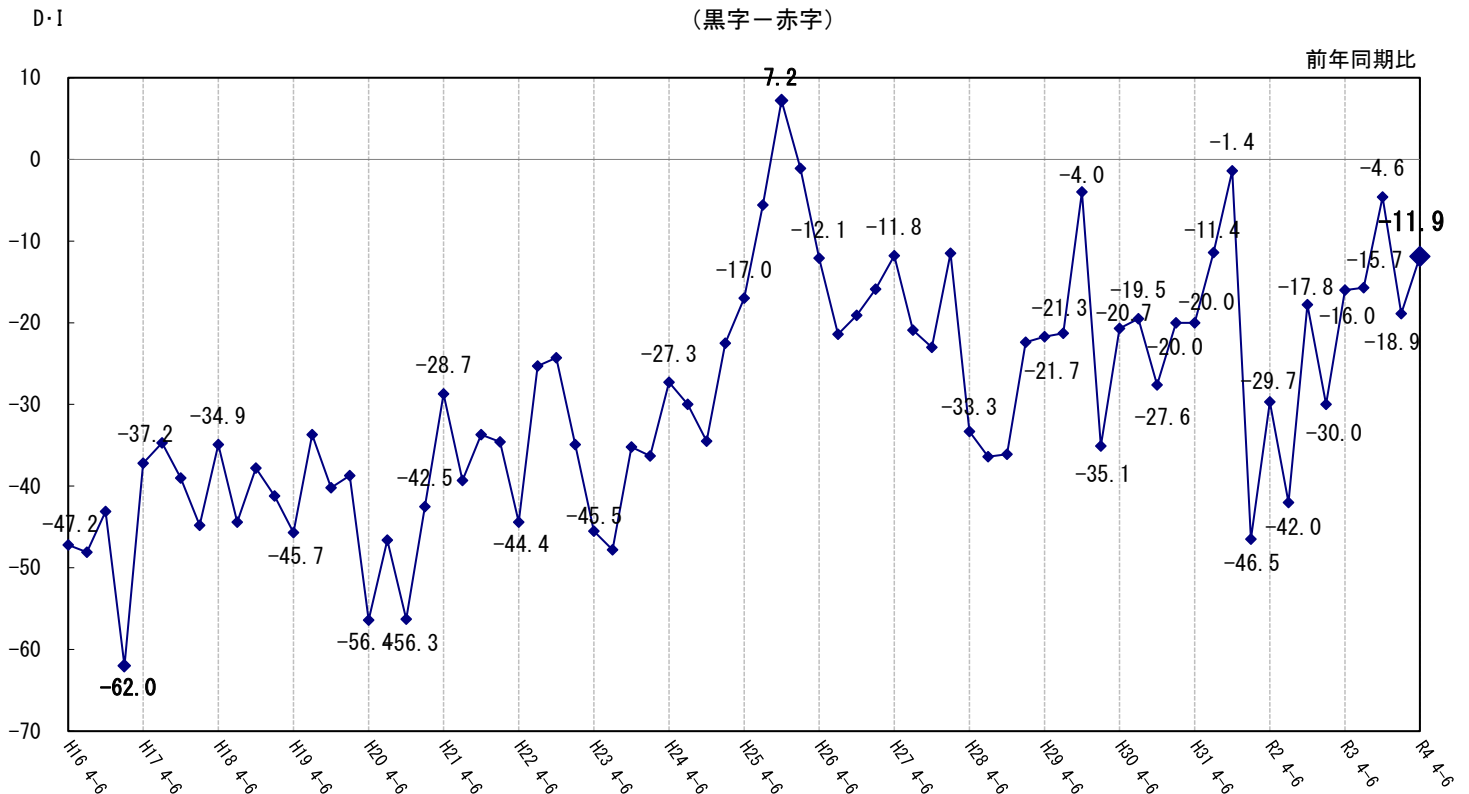
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲40.0→▲20.0〕、水産業〔前年33.4→18.7〕
 機械工業〔前年23.6→11.1〕、建設業〔前年▲9.6→9.5〕
 観光・サービス業〔前年▲9.6→▲11.8〕

(2) 今期の採算

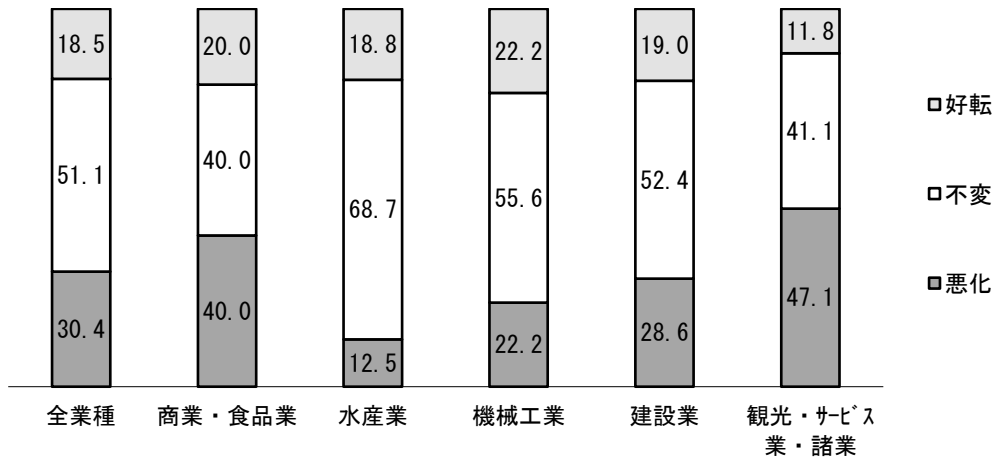
〔前年同期比〕（令和3（2021）年4月～6月期の水準と比較した今期の採算水準）

採算推移（全業種平均D・I）

（黒字＝赤字）



今期の採算（前年同期比）



全業種平均でDI値▲11.9〔前年同期（令和3年4～6月期▲16.0）より4.1ポイント回復〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前年▲40.0→▲20.0〕、水産業〔前年0.0→6.3〕
 機械工業〔前年▲5.9→0.0〕、建設業〔前年▲14.3→▲9.6〕
 観光・サービス業〔前年▲14.3→▲35.3〕

(3) 今期の資金繰り

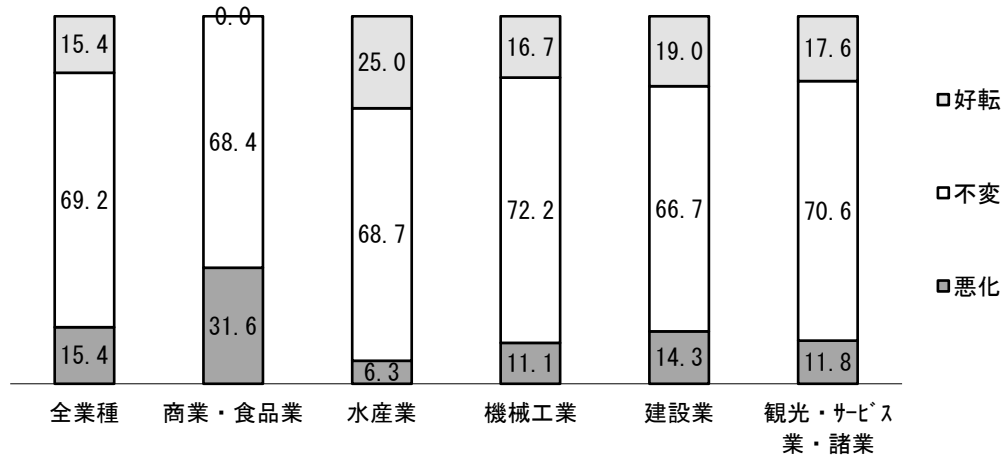
【前年同期比】（令和3（2021）年4月～6月期の水準と比較した今期の資金繰り）

資金繰り推移（全業種平均D・I）

（好転－悪化）



今期の資金繰り（前年同期比）



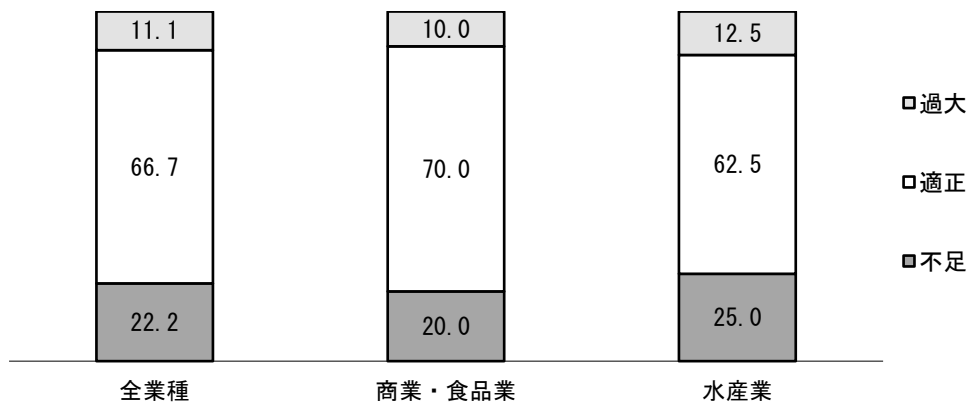
全業種平均でDI値 **0.0** [前年同期（令和3年4～6月期▲9.6）より9.6ポイント回復]

[部会別DI値] 商業・食品業 [前年▲20.0→▲31.6]、水産業 [前年0.0→18.7]
 機械工業 [前年▲17.6→5.6]、建設業 [前年▲4.7→4.7]
 観光・サービス業 [前年▲4.7→5.8]

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（令和3（2021）年4月～6月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）

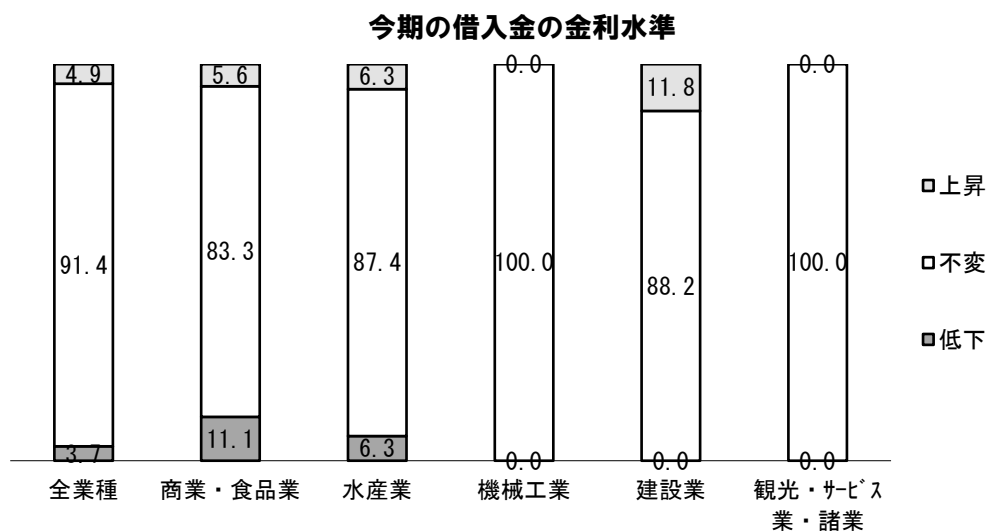


全業種平均でDI値▲11.1 [前年同期（令和3年4～6月期0.0）より11.4ポイント不足]

[部会別DI値] 商業・食品業 [前年5.0→▲10.0]、水産業 [前年▲6.7→▲12.5]

(5) 今期の借入金の金利水準

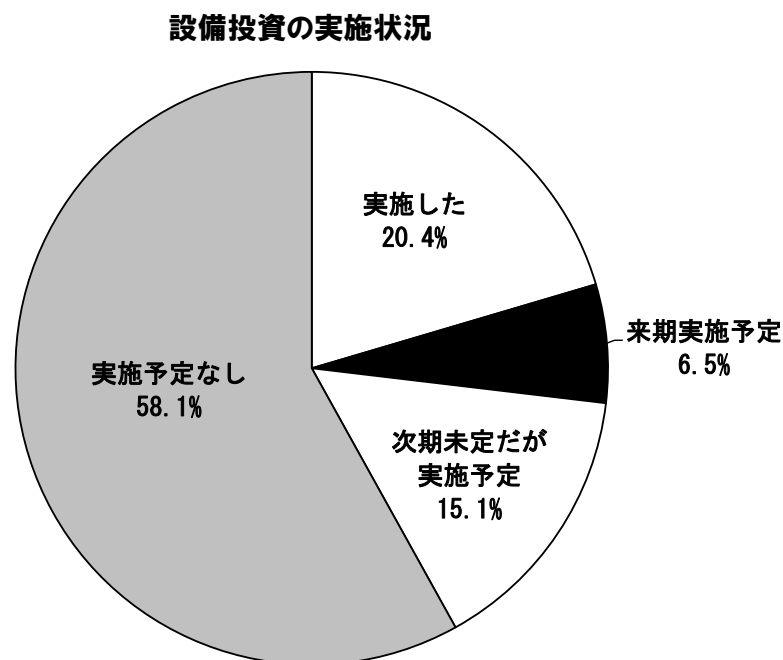
【前年同期比】（令和3（2021）年4月～6月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で1.2ポイント。商業食品業▲5.5、水産業0.0、機械工業0.0、建設業11.8、観光サービス業0.0。

(6) 設備投資の実施状況

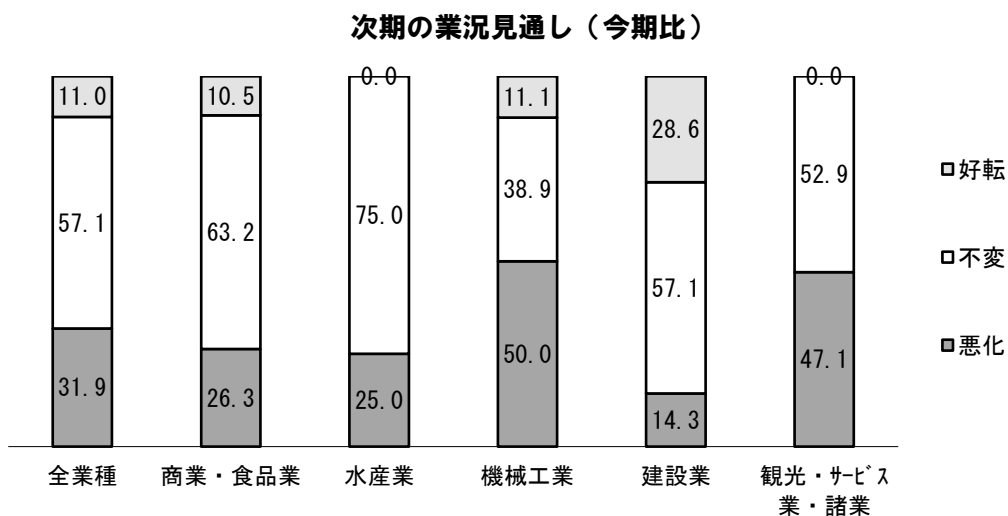
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

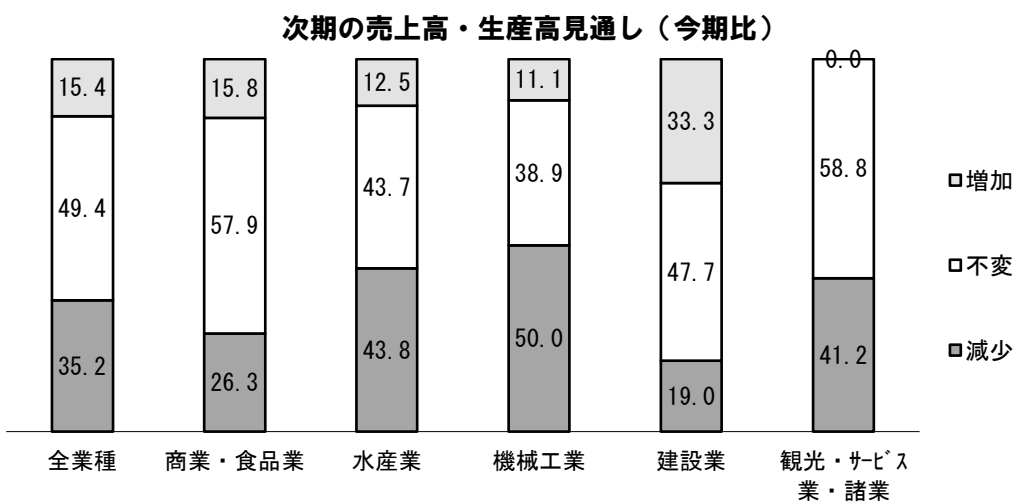
【今期比】（令和4（2022）年4月～6月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値▲20.9 [今期の業況（前年同期比▲3.3）より 17.6 ポイント悪化の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

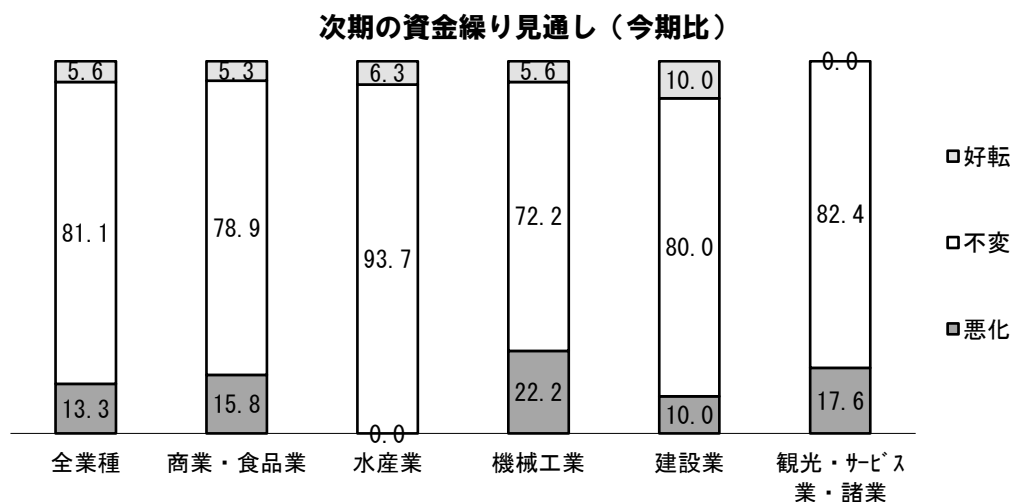
【今期比】（令和4（2022）年4月～6月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）



全業種平均 DI 値▲19.8 [今期の売上高・生産高（前年同期比 1.1）より 20.9 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（令和4（2022）年4月～6月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均DI値▲7.7〔今期の資金繰り（前年同期比▲0.0）より7.7ポイント悪化の見通し〕

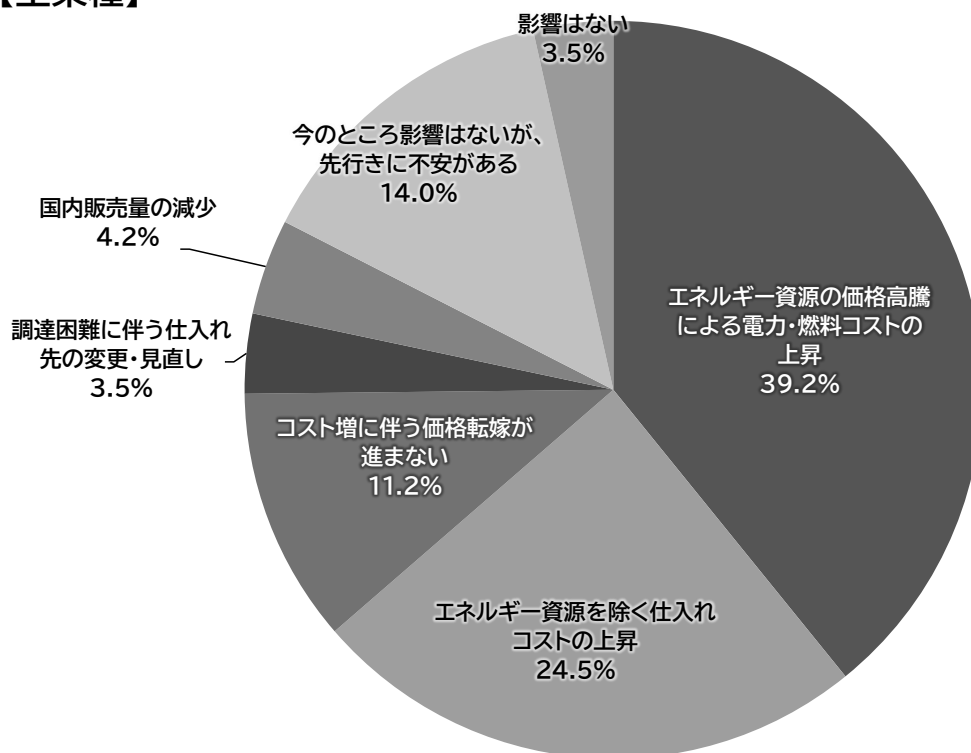
Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲3.3	▲25.0	12.5	11.1	4.8	▲17.7
	来期見通し	▲20.9	▲15.8	▲25.0	▲38.9	14.3	▲47.1
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	1.1	▲20.0	▲18.7	11.1	9.5	▲11.8
	来期見通し	▲19.8	▲10.5	▲31.3	▲38.9	14.3	▲41.2
在庫 D・I	今期実績	▲11.1	▲10.0	▲12.5	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲11.9	▲20.0	6.3	0.0	▲9.6	▲35.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	0.0	▲31.6	18.7	5.6	4.7	5.8
	来期見通し	▲7.7	▲10.5	6.3	▲16.6	0.0	▲17.6
借入金 金利水準 D・I	今期実績	1.2	▲5.5	0.0	0.0	11.8	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。

IV. ロシアのウクライナ侵攻による影響について

【全業種】



	全業種	商業・食品業	水産業	機械・工業	建設業	観光サービス・諸業
■エネルギー資源の価格高騰による電力・燃料コストの上昇	56	12	9	12	9	14
■エネルギー資源を除く仕入れコストの上昇	35	7	7	7	9	5
■コスト増に伴う価格転嫁が進まない	16	3	1	3	2	7
■調達困難に伴う仕入れ先の変更・見直し	5	2	1	1	1	0
■国内販売量の減少	6	2	2	1	1	0
■今のところ影響はないが、先行きに不安がある	20	4	4	6	4	2
■影響はない	5	0	2	0	3	0
■分からない	5	1	1	0	3	0
■無回答	4	2	0	0	0	2